

赤穂未来創造委員会 第2回教育・文化・経済部会 <資料>

1 前回の部会における意見の整理

【教育対策】

- ・子どもの学びについて、義士や塩など地域のことを学ぶ機会を充実することは大切である。
- ・学校園の統廃合について、学校は地域コミュニティや防災機能を果たしている面もあり、慎重な検討が必要である。
- ・不登校児童への対応は大切である。関西福祉大学もスクールソーシャルワーカーとして関わっているがところであり、子育て世代が安心できる体制づくりなど、さらなる充実を図る必要がある。
- ・大学を有する市というのが、赤穂市の大きな魅力の1つである。子どもから高齢者まで、教育、文化、スポーツ、産業など色々な分野において、大学は「リカレント教育（学び直し）」の機会を提供できる。大学をうまく活用していく。

【文化・スポーツ対策】

- ・民俗資料館を塩業資料館としての活用を。
- ・「人生100年時代」において、健康寿命を延伸するため、生涯スポーツを推進し、高齢者とスポーツを支援する。
- ・少子化により子どもの人数が減っており、学校でのクラブ活動ができない現実がある。スポーツ教室などをはじめ、関西福祉大学の協力もいただきながら支援していく必要がある。
- ・トライアスロンの開催など、まちを元気にする大会を開催し、学生やボランティアの活用を。
- ・山鹿素行の顕彰を。
- ・市民の文化芸術活動は地域のコミュニケーションの場である。青少年の文化活動が少なく、高齢者が中心になっている。高齢になっても人と人がつながり、生きがいを持って、心豊かな生活が送れていると実感できるよう、文化芸術活動によるコミュニケーションを図っていく。そのためにも、地区公民館のさらなる活用を。

【産業対策】

- ・若い働き手が減少する中、トライアルウイークなどを通じた職業体験や、地元の工場見学を行うなど、子どものころから積極的に地域の産業を学ぶことが大切である。
- ・今後の観光産業は、インバウンドで賄っていかなければならない部分もある。もっと国際理解を深めていくことが大切である。

2 基本的な方向性のまとめ

○子どもが「学ぶ」機会づくり

〔学校教育と社会教育の連携〕

○何度でもチャレンジできる環境づくり

〔学び直し（リカレント教育）の充実〕

○健康寿命を延ばし、元気な高齢者を増やす

〔生涯スポーツによる健康づくりや地域における文化芸術活動の振興〕



地域資源である「関西福祉大学」をまちづくりに生かす